

生演奏で楽しむ音楽科

～心豊かなひと時～

< 第10回講義 >

日時 2023年9月22日(金) 10:00～12:00
学習テーマ 楽器の魅力④ ピアノ
講師 藤井 快哉 (ふじい よしき) 先生



9月に入りお月見の季節になったことから、テーマをベートーヴェンの「月光ソナタまでの道のり」と題して、講義と演奏がありました。

講義内容

①ソナタの言葉の由来

ドメニコ・スカルラッティのソナタについて

②古典派のソナタについて

鍵盤楽器の発展の歴史

フランツ・ヨーゼフ・ハイドンとベートーヴェンの関係について

③ベートーヴェンの「月光ソナタ」

ベートーヴェンについて

ベートーヴェンのピアノソナタについて

ソナタの発展

「月光ソナタ」について

演奏

D.スカルラッティ作曲 ソナタ ホ長調 K.380

J.ハイドン作曲 ソナタ 第62番 変ホ長調 Hob.XVL:52 op.82

L. v. ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第14番 「月光」嬰ハ短調 Op.27-2

この曲はベートーヴェンが30歳の時の作品でピアノソナタ32曲のなかでは中期に位置するまさに油の乗り切った時期の傑作である。「幻想曲風ソナタ」という題名が付されている。

「月光ソナタ」の愛称はベートーヴェンの死後、ドイツの音楽評論家・詩人であるルートヴィヒ・レルシュタープが「スイスのルツェルン湖の月光の波に揺らぐ小舟のよう」と表現したことに由来するといわれている。

また、ベートーヴェンはこの作品について「弱音器を使わずに演奏すること」と指示をしているが、この弱音器とは現代のピアノではダンパーを上げ続けた状態と解釈されている。

先生がベートーヴェンの指示通りに第1楽章の冒頭の部分をダンパーペダルを踏みっぱなしの状態を試験的に演奏されました。

和音の余韻の中から新たな和音が次々と湧き出てくるような印象を受け、ベートーヴェンが「幻想曲風」と題したこの作品の意図が少し理解できたように思います。

